

主要産地における令和2年度水稲の生育状況等について 第11報 (7月29日取り纏め)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (令和2年7月29日)

道府県	生育状況等 (参考)		技術・防除・気象等関連公表資料 (自治体、気象台等公表資料の抜粋)	(参考)
	区分	育苗・田植進行状況・生育状況等 (自治体等公表資料の抜粋) 平年に対する遅速等		
北海道	(生育)	<p>【生育状況 (7月15日現在)】</p> <p>(全道) 生育は、平年並に進んでいる。(北海道農政部 7月20日付)</p> <p>(空知) 生育は平年並である。(空知総合振興局 7月20日付)</p> <p>(石狩) 生育は平年並である。(石狩振興局 7月20日付)</p> <p>(後志) 遅速は±0日。(後志総合振興局 7月20日付)</p> <p>(胆振) 生育は平年並。(胆振総合振興局 7月20日付)</p> <p>(日高) 生育は早く止業は抽出してきている。分けつのは発生は緩慢である。(日高総合振興局 7月20日付)</p> <p>(渡島) 幼穂形成期は平年に比べ1日早い。気温が高めに推移したため、生育はやや早まった。(渡島総合振興局 7月20日付)</p> <p>(檜山) 生育は概ね平年並で推移。(檜山振興局 7月20日付)</p> <p>(上川) 生育の遅速は、平年並に推移している。(上川総合振興局 7月20日付)</p> <p>(留萌) 生育は平年並に進んでいる。(留萌振興局 7月20日付)</p> <p>(オホーツク) 生育はやや進んでいる。(オホーツク総合振興局 7月20日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月25日～8月24日】</p> <p>北海道地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁札幌管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>北海道地方の向こう3か月の平均気温は平年並が高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁札幌管区気象台)</p>	<p>主要品種に大きな変動はないものの、産種栽培に適した新品種「えみまる」が増加すると見込まれる。</p> <p>(農林水産省 3月17日) (以下同)</p>
青森	(生育)	<p>【7月20日現在】</p> <p>(黒石)</p> <p>「つがるロマン」は草丈が70.7cmで平年より1.6cm長く、株当たりの茎数は24.7本で4.3本少なく、葉数は12.1葉で0.4葉多かった。「青天の霹靂」は草丈が78.1cmで平年より4.3cm長く、株当たりの茎数は23.1本で3.3本少なく、葉数は10.7葉で0.1葉多かった。「まっしぐら」は草丈が71.8cmで平年よりも2.8cm短く、株当たりの茎数は23.6本で6.8本少なく、葉数は11.4葉で0.2葉少なかった。</p> <p>(十和田)</p> <p>「まっしぐら」の生育状況は草丈が66.5cmで前年より0.2cm長く、株当たりの茎数は17.6本で12.0本少なかった。</p> <p>(地独) 青森県産業技術センター-農林総合研究所 7月20日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月25日～8月24日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込み。 降水量は平年並が多い見込み。日照時間は日本海側で平年並か少なく、太平洋側で少ない見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の気温は平年並が高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p>	<p>「つがるロマン」「まっしぐら」の2品種で9割を占める品種構成で、近年収量水準の高い「まっしぐら」が増加傾向にあり、令和2年度も同様の傾向になると考えられる。</p>
岩手	(生育)	<p>【7月15日現在】</p> <p>(1) 農業研究センター (北上)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全品種とも、草丈は平年より長く、茎数は平年並みから多く、葉数は平年よりやや少なくなっている。葉色は平年並みからやや濃くなっている。 「ひとめぼれ」は7月15日 (平年より1日遅い) に、「あきたこまち」は7月10日 (平年より1日遅い) に、「銀河のしずく」は7月9日 (平年より1日早い) に幼穂形成期に達した。 <p>(2) 県農業研究所 (軽米)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「いわてっこ」の草丈、茎数は平年を下回っており、葉数は平年並みである。葉色は平年をやや下回っている。 7月9日 (平年同) に幼穂形成期に達した。 <p>(岩手県農業研究センター 7月20日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月25日～8月24日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込み。 降水量は平年並が多い見込み。日照時間は日本海側で平年並か少なく、太平洋側で少ない見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の気温は平年並が高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p>	<p>「ひとめぼれ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。県では「ひとめぼれ」「あきたこまち」からオリジナル品種「銀河のしずく」に転換を図ることとしている。</p>
宮城	(生育)	<p>【7月20日現在】 (県全体の平均)</p> <ul style="list-style-type: none"> 草丈は70.6cm (平年比100%)、1㎡当たりの茎数は509本 (平年比97%)、葉数は11.7枚 (平年並-0.3枚)、葉色はGM値が38.1 (平年並3.0) となっている。幼穂長は26.2mm (平年並-32.7mm) となっており、幼穂形成期は7月9日頃で生育は概ね順調である。 今後の気温が平年並みで推移した場合、北部平坦地帯における出穂期は8月2日頃になる見込み。(宮城県 7月21日付) <p>【7月20日現在】</p> <p>(大河原) 生育は停滞気味、南部平坦の中生産品種の出穂期は平年 (7月31日) よりも2日程度、前年 (8月1日) より1日程度遅い見込み。 (大河原農業改良普及センター 7月21日付)</p> <p>(仙台) 草丈・茎数とも一部の品種を除き前年を上回る状況。調査結果からは7月中旬の低温による生育の停滞は見られない。 (仙台農業改良普及センター 7月21日付)</p> <p>(大崎) 草丈と茎数は平年並～やや上回ったが、生育がやや停滞したため葉数が平年よりやや少なく、葉色は濃い傾向。 (大崎農業改良普及センター 7月21日付)</p> <p>(美里) 低温と日照不足の影響で生育は停滞傾向。(美里農業改良普及センター 7月21日付)</p> <p>(栗原) 生育は順調である。(栗原農業改良普及センター 7月22日付)</p> <p>(刈田) 草丈が長く、葉色も濃い傾向。平年よりも生育が遅い傾向。草丈・平年並、茎数：やや少ない、葉色：濃い、葉数・幼穂長：平年より少ない (栗原農業改良普及センター 7月22日付)</p> <p>(石巻) 草丈は平年並み、葉数は「ひとめぼれ」では平年並み、「ササニキギ」では平年より少なくなっている。葉色 (SPAD値) は平年より濃くなっている。平年に比べて幼穂の伸長はやや遅れている。(石巻農業改良普及センター 7月22日付)</p> <p>(気仙沼) 管内の生育調査においては、葉数は前年並、茎数は前年並からやや多くなっており、生育は順調に進んでいる。 (気仙沼農業改良普及センター 7月20日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月25日～8月24日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込み。 降水量は平年並が多い見込み。日照時間は日本海側で平年並か少なく、太平洋側で少ない見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の気温は平年並が高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p>	<p>「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっており、「つや姫」が増加傾向となっている。「萌えみのり」「たて正夢」はやや増加傾向にある。</p>
秋田	(生育)	<p>(山本) 7月22日に実施した水稲定植調査によると、草丈71.7cm (平年比で97%)、茎数514本/㎡ (同106%)、葉数11.9 (同-0.4)、葉色 (SPAD値) 39.4 (同103%) となっている。(7月22日付)</p> <p>(雄勝) 草丈が長く、葉色も濃い傾向。平年よりも生育が遅い傾向。草丈・平年並、茎数：やや少ない、葉色：濃い、葉数・幼穂長：平年より少ない (雄勝農業改良普及センター 7月22日付)</p> <p>(由利) 多くの圃場で幼穂形成期に入っている。(7月20日付)</p> <p>(平鹿) 7月15日現在の水稲定植調査 (あきたこまち11か所) では、草丈67.3cm (平年比106%)、茎数526本/㎡ (同比102%)、葉数11.0葉 (同差+0.1葉) となっている。(7月17日付)</p> <p>(秋田) 6月25日の調査では、草丈がやや高く、茎数、葉数は平年並みとなっている。(6月26日付)</p> <p>(鹿角) 6月25日の水稲生育定植調査では、草丈39.4cmで長く (平年比105%)、㎡当たり茎数は481本で多く (平年比127%)、葉数は0.0葉でやや多く (平年並+0.2) 葉色はSPAD値43.4で薄い (平年比95%)。(7月3日付)</p> <p>(北秋田) 6月下旬以降、日気温差が小さい日が続く。茎数増加が抑制され生育は平年並み。 病害虫の目立った発生は見られていない。(7月10日付)</p> <p>(秋田県農林政策課)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月25日～8月24日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込み。 降水量は平年並が多い見込み。日照時間は日本海側で平年並か少なく、太平洋側で少ない見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の気温は平年並が高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p>	<p>「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はないものの、「めんこい」「ゆめおここ」等の多収性品種が増加傾向となり、一定のウエイトを占めてきた。</p>
山形	(生育)	<p>【7月20日現在】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平坦部「はえぬき」の生育は、草丈、茎数、葉数は平年並み、葉色は、平年よりやや濃い状況となっている。農業総合研究センターの幼穂調査によると、出穂期は概ね平年並みと予想している。低温・日照不足の影響が懸念される。 「つや姫」の生育は、草丈、茎数、葉数は平年並み、葉色は、平年より濃い状況となっている。予想出穂期は、農業総合研究センター (山形市のり丘) では8月7日頃 (平年8月7日)、水田農業研究所 (鶴岡市藤島) では8月9日頃 (平年8月10日) であり、概ね平年並と見込まれている。 「雪若丸」の生育は、指標値と比べ、草丈・葉数は並み、茎数は多く、葉色は濃い状況となっている。出穂は、農業総合研究センター (山形市のり丘) で8月3日頃 (平年8月2日)、水田農業研究所 (鶴岡市藤島) で8月3日頃 (平年8月2日) と概ね平年並の見込み。(山形おいしき除す!米づくりプロジェクト本部 7月20日付) (北村山) 平坦部の出穂期は平年並み見込み。「はえぬき」8月6～10日頃、「つや姫」8月9～13日頃、「雪若丸」8月5～8日頃。(村山総合支庁北村山農業技術普及課 7月22日付) 	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月25日～8月24日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込み。 降水量は平年並が多い見込み。日照時間は日本海側で平年並か少なく、太平洋側で少ない見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の気温は平年並が高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【注意報】 (いもち病)</p> <p>向こう1か月の天候は、期間のはじめは平年に比べ曇りや雨の日が多いと予想されており、今後、上位葉での発生増加及び穂いもちの発生が懸念される。 (山形県病害虫防除所 7月22日付)</p>	<p>「はえぬき」「つや姫」「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。新品種「雪若丸」は増加傾向にある。</p>
福島	(生育)	<p>【7月14日現在】</p> <p>(1) 作況ほ場および肥料・農業展示ほ場の生育状況 (郡山市・JA福島さくら・県で設置している作況ほ場および肥料・農業展示ほ場の生育を各品種ごとに平均した結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平坦部では全般的に、草丈はやや長く、茎数はやや少なく、葉色は平年並の状況にある。また、葉数は進んでいる。 7月14日時点で、ひとめぼれが幼穂形成期となっており、直穂や移穂時期が遅いもの等では幼穂が未確認。 湖沼地区では、草丈はやや長く、茎数はやや少なく、葉色は濃い状況にある。また、葉数は平年並で、7月14日時点で幼穂形成期となっている。 <p>(2) 福島県農業総合センター-生育概況 作務新試験 (慣行栽培、5月15日移植) では、7月14日現在、草丈は平年並、茎数は平年並～やや少なく、出葉は平年より3～4日遅み、葉色は平年並。</p> <p>(郡山市農作物生産対策協議会 7月20日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月25日～8月24日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込み。 降水量は平年並が多い見込み。日照時間は日本海側で平年並か少なく、太平洋側で少ない見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の気温は平年並が高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p>	<p>「コシヒカリ」「ひとめぼれ」を中心とする品種構成で、近年「天のつが」が増加傾向となっている。</p>

生育状況等			
茨城	<p>【水稲の生育状況（7月20日現在、水戸市）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 5月1日移植・対年並速達 「あきたこまち」2日早い、「ふくまる」1日早い、「コシヒカリ」2日遅い。 出穂期は、「あきたこまち」が7月14日で年並より2日早く、「ふくまる」が7月16日で年並より1日早かった。 7月20日における「コシヒカリ」の主穂幼穂長は176.4mmで、幼穂長から予測される出穂期は7月27日。 5月11日移植・対年並速達 「コシヒカリ」5日遅い。 主穂幼穂長は118.7mmで、幼穂長から予測される出穂期は8月5日。（茨城県農業総合センター-農業研究所作物研究室 7月22日付） <p>（生育）</p> <p>【水稲の生育状況（7月16日現在、龍ヶ崎市）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月24日移植・対年並速達 「あきたこまち」1日遅い、「ふくまる」1日遅い、「コシヒカリ」2日遅い。 出穂期は、「あきたこまち」で7月12日、「ふくまる」で7月16日であり、両品種とも年並より遅い。今後気温が年並に推移した場合、幼穂長から予測される出穂期は、「コシヒカリ」で年並より2日遅い7月24日。 5月7日移植・対年並速達 「あきたこまち」6日遅い、「コシヒカリ」7日遅い。 今後、気温が年並に推移した場合、幼穂長から予測される出穂期は、「あきたこまち」で年並より6日遅い7月24日、「コシヒカリ」では年並より7日遅い8月3日。（茨城県農業総合センター-農業研究所水田利用研究室 7月20日付） 	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月25日～8月24日】</p> <p>関東甲信地方の向こう1か月の気温は年並か低い見込み。降水量は年並か多い見込み。日照時間は少ない見込み。（気象庁東京管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>関東甲信地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ年並の見込み。（気象庁東京管区気象台）</p> <p>・県内の広範囲で暑いもの感染好適条件の出現がやや多い状況。（茨城県畜産防除所 7月17日付）</p>	<p>「コシヒカリ」「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「ふくまる」がやや増加傾向にある。</p>
栃木	<p>【7月20日生育調査】</p> <p>(1) コシヒカリ 出穂は年並よりやや遅れる見込みとなっている。</p> <p>(2) とちぎの星 ・草丈はやや高く（年比104%）、茎数は少なく（91%）、葉齢は年並より0.4少ない。葉色は年並より0.2 深く、生育診断値（葉色×茎数）は年比86%となっている。なお、暑いもちが確認されている。</p> <p>（栃木県 7月27日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月25日～8月24日】</p> <p>関東甲信地方の向こう1か月の気温は年並か低い見込み。降水量は年並か多い見込み。日照時間は少ない見込み。（気象庁東京管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>関東甲信地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ年並の見込み。（気象庁東京管区気象台）</p>	<p>「コシヒカリ」「あきたこまち」を中心とする品種構成であり、近年「コシヒカリ」「とちぎの星」がやや増加傾向にある。</p>
千葉	<p>・7月中旬以降、気温が低く、日照が少なかったため、「ふさおとめ」「ふさこがね」では登熟の遅れ、「コシヒカリ」「粒すけ」では出穂の遅れが生じている。</p> <p>・（成熟期） 4月20日植え「ふさおとめ」が8月13日頃から、「ふさこがね」は8月20日頃から、「コシヒカリ」は8月26日頃からと予測される。</p> <p>・また「コシヒカリ」は出穂にバラつきが見られる。</p> <p>（千葉県 7月28日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月25日～8月24日】</p> <p>関東甲信地方の向こう1か月の気温は年並か低い見込み。降水量は年並か多い見込み。日照時間は少ない見込み。（気象庁東京管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>関東甲信地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ年並の見込み。（気象庁東京管区気象台）</p>	<p>「コシヒカリ」「ふさこがね」「ふさおとめ」を中心とする品種構成であり、近年「ふさこがね」が増加傾向にある。</p>
新潟	<p>・水稲の生育は、6月末以降の日照不足及び多雨により、長草・軟弱傾向にあり、穂色は緩慢となっている。</p> <p>・暑いもちの発生リスクが高い生育状況になっている。（新潟県 7月22日付）</p> <p>【7月27日現在の生育状況】</p> <p>「コシヒカリ」出穂期（県平均）は、年並より8月5日の見込み。「新之助」出穂期（県平均）は、年並より1日遅い8月11日の見込み。「こしいぶき」出穂期は年並の7月28日だった。（新潟県 7月28日付）</p> <p>（三 条） 降雨が続き、いもち病発生ほ場が多くなっている。（三条農業普及指導センター 7月27日付）</p> <p>（長 岡） 予想出穂期は8月4日（すでに出穂期10日前を切っている）（5月10日植えを想定）。（長岡農業普及指導センター 7月27日付）</p> <p>（南魚沼） コシヒカリの出穂期は前年より2日遅く、年並より1日早くなる見込み。（南魚沼農業普及指導センター 7月27日付）</p> <p>（新発田） 管内のコシヒカリ生育状況 出穂10日前を切ったほ場も見られる。（新発田農業普及指導センター 7月27日付）</p> <p>（岩 船） コシヒカリの出穂期は、年並に比べ1日程度遅れる見込み（中山間地域や風の影響の強い地域では、更に遅れる見込み）。早生を中心に各地で暑いもちの発生が確認されている。（村上農業普及指導センター 7月27日付）</p> <p>（柏 崎） 管内のコシヒカリの出穂期は8月4日頃と見込まれる（5月10～15日田植えを想定）。（柏崎農業普及指導センター 7月27日付）</p> <p>（十日町） 長雨と日照不足により、草丈が伸び倒伏心配される状況となっている。出穂期は早生品種や田植えの早いコシヒカリで年並、田植えの遅いコシヒカリでやや遅い見込み。（十日町農業普及指導センターほか 7月20日付）</p> <p>（魚 沼） 指標値に比べ、草丈、葉数、茎数、葉色、葉齢は並み、葉色はやや遅い。（魚沼農業普及指導センター 7月20日付）</p> <p>（上 越） 「コシヒカリ」の生育は、葉色が遅く、茎数減少が緩慢です。下位節間の伸長による倒伏の発生が懸念され、もみ数減少となる恐れがある。「こしいぶき」の生育は、草丈はやや長く、茎数は多く、葉色は遅くならない。（上越農業普及指導センター 7月8日付）</p> <p>（糸魚川） 全体的に、生育は順調。現時点の予想では、出穂期は前年よりやや遅く年並みの見込み。（糸魚川地域振興局農林振興部 7月20日付）</p> <p>（佐 渡） コシヒカリの出穂期は、年並みと予想される。（佐渡農業普及指導センター 7月20日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月25日～8月24日】</p> <p>北陸地方の向こう1か月の気温は、ほぼ年並の見込み。降水量は年並か多く、日照時間は年並か少ない見込み。（気象庁新潟地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>北陸地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ年並の見込み。（気象庁新潟地方気象台）</p>	<p>「コシヒカリ」「こしいぶき」を中心とする品種構成で、近年「コシヒカリ」が減少傾向にある。また、県では新品種「新之助」の作付拡大を推奨している。</p>
富山	<p>【7月20日生育観測】</p> <p>(1) コシヒカリ 年並に比べて、草丈、茎数、葉色、葉齢は並みとなっている。出穂期は、今後、年並みの気温で推移した場合、年並みの8月2日頃と見込まれる。</p> <p>(2) てんこもり 年並に比べて、草丈、葉色は並み、茎数はやや少なく、葉齢は遅れている。出穂期は、今後、年並みの気温で推移した場合、年並より1日遅い8月3日頃と見込まれる。</p> <p>(3) てんたくく 5月2日移植の「てんたくく」の出穂期は、年並より4日早い7月16日となった。成熟期は、今後、年並みの気温で推移した場合、年並より4日早い8月21日頃と見込まれる。</p> <p>(4) 富富富 近年に比べて、草丈、茎数、葉齢、葉色は並みとなっている。今後、気温が年並に推移すると、出穂期は、近年より1日遅い8月4日頃と見込まれる</p> <p>（富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月20日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月25日～8月24日】</p> <p>北陸地方の向こう1か月の気温は、ほぼ年並の見込み。降水量は年並か多く、日照時間は年並か少ない見込み。（気象庁新潟地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>北陸地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ年並の見込み。（気象庁新潟地方気象台）</p>	<p>「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっているものの、高温多湿でも品質が安定している「てんこもり」「富富富」が増加傾向にある。</p>
石川	<p>【本田の生育7月17日調査】</p> <p>（出穂期予想） 「ゆめつぼ」 年並に比べ3～4日早く、前年並。加賀地域では既に出穂期となっており、能登地域では出穂期となっている。</p> <p>「能登ひかり」 近年に比べ1～3日早く、前年に比べ1日早いと見込まれる。</p> <p>「コシヒカリ」 加賀地域では年並に比べ2日早い～3日遅く、前年並～2日遅く、能登地域では年並に比べ2日早い～前年並と見込まれる。</p> <p>「ひやくまん穀」 加賀地域で近年に比べ2～3日遅く、前年並、能登地域は近年及び前年に比べ1日遅いと見込まれる。</p> <p>（石川県農業総合センター 7月20日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月25日～8月24日】</p> <p>北陸地方の向こう1か月の気温は、ほぼ年並の見込み。降水量は年並か多く、日照時間は年並か少ない見込み。（気象庁新潟地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>北陸地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ年並の見込み。（気象庁新潟地方気象台）</p>	<p>「コシヒカリ」及び「ゆめつぼ」を中心とする品種構成であるが、近年県オリジナル新品種の「ひやくまん穀」が増加傾向にある。</p>
福井	<p>・日照不足の影響で稲穂は軟弱となり、一部では暑いもちの発生も見られている。</p> <p>（福井県農業総合指導推進会議 7月15日付）</p> <p>（生育）</p> <p>【7月9日調査】</p> <p>・長雨の影響により、いもち病の発生が見られる。</p> <p>・移植のコシヒカリは、早いところで7月10日 前後に出穂期を迎えている。</p> <p>（水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月10日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月25日～8月24日】</p> <p>北陸地方の向こう1か月の気温は、ほぼ年並の見込み。降水量は年並か多く、日照時間は年並か少ない見込み。（気象庁新潟地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>北陸地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ年並の見込み。（気象庁新潟地方気象台）</p> <p>【注意報】（穂いもち（中晩生）） 発生量は前年、前年より多い。（福井県農業試験場 7月27日付）</p>	<p>「コシヒカリ」「ハナエチゼン」を中心とする品種構成であるが、近年「コシヒカリ」が減少傾向、「あきさかり」が増加傾向にある。なお、新品種である「いちほまれ」も増加傾向にある。</p>
長野	<p>・豊科定点圃場では、あきたこまちは7月4日、美山線は7月3日、コシヒカリは7月14日、風さやかは7月17日に幼穂形成期に入り、年並より2～3日程度遅くなった。しかし7月中旬以降が低温傾向のため、生育は停滞気味になっている。</p> <p>・7月18日現在の出穂期予測では、早生品種で年並み、コシヒカリで5日早くと推定。（松本農業農村支援センター 7月20日付）</p> <p>【標高348m須坂市八重森の農業試験場における水稲生育状況（7月20日現在）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 移植後40日の生育は、いずれの品種もおおむね年並みとなった。 幼穂形成期は「あきたこまち」で年並より2日遅く、「コシヒカリ」で年並み、「風さやか」で1日早かった。 <p>【標高1017m原村の原村試験場における水稲生育状況（7月20日現在）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 移植後50日調査では、低温、降雨の影響で生育はやや停滞したと思われる。 幼穂形成期は「きらりん」、「ゆめしなの」で年並より2日早く、「あきたこまち」で2日遅かった。 <p>（長野県農業試験場 7月20日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月25日～8月24日】</p> <p>関東甲信地方の向こう1か月の気温は年並か低い見込み。降水量は年並か多い見込み。日照時間は少ない見込み。（気象庁東京管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>関東甲信地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ年並の見込み。（気象庁東京管区気象台）</p>	<p>「コシヒカリ」「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。県オリジナル品種として「風さやか」の導入を推進している。</p>

	生育状況等		
滋賀	<p>【農業技術振興センター水稲作況調査（7月20日時点）】</p> <p>（5月11日移植）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「みずかがみ」「コシヒカリ」とも草丈は平年並、莖数は少ない。 <p>（生育）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「みずかがみ」の出穂期は、7月上旬～中旬の気温が低く、平年より2日遅い7月24日頃の見込み。 <p>（滋賀県農業技術振興センター 7月22日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月25日～8月24日】</p> <p>近畿地方の向こう1か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は日本海側で平年並が多く、太平洋側で多い見込み。日照時間は平年並か少ない見込み。（気象庁大阪管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁大阪管区気象台）</p>	<p>「コシヒカリ」「キヌヒカリ」「日本晴」を中心とする品種構成であるが、近年「コシヒカリ」「キヌヒカリ」が減少傾向となっている。高温多湿性に優れた「みずかがみ」を増加する計画である。</p>
兵庫	<p>（東北）</p> <ul style="list-style-type: none"> コシヒカリの葉齢の進展は平年よりやや遅く、草丈はやや長く、莖数は少ない。遅植えでは葉齢の進展はやや遅く、草丈はかなり長く、莖数はかなり多い。 <p>（生育）</p> <p>（東北以外）</p> <ul style="list-style-type: none"> 葉齢の進展は平年よりやや早く、草丈は平年並みからやや低い、莖数は多い。 <p>（兵庫県 7月3日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月25日～8月24日】</p> <p>近畿地方の向こう1か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は日本海側で平年並が多く、太平洋側で多い見込み。日照時間は平年並か少ない見込み。（気象庁大阪管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁大阪管区気象台）</p>	<p>「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」「キヌヒカリ」「山田錦」を中心とする品種構成である。「きぬむすめ」の作付推進を図っている。</p>
岡山	<p>（生育）</p> <ul style="list-style-type: none"> 莖数は概ね平年並で推移している。 極早生種の生育は概ね平年並である。 <p>（岡山県 7月2日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月25日～8月24日】</p> <p>中国地方の向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。（気象庁広島地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁広島地方気象台）</p> <p>【病害虫注意報】</p> <p>トビロウカ（7月9日発表）（農林水産省 7月15日付）</p>	<p>「アケボノ」「ヒノヒカリ」「あきたこまち」「コシヒカリ」を中心とする品種構成である。近年「きぬむすめ」が増加傾向となっている。</p>
広島		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月25日～8月24日】</p> <p>中国地方の向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。（気象庁広島地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁広島地方気象台）</p>	<p>「あきさかり」が増加傾向にある。</p>
愛媛		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月25日～8月24日】</p> <p>四国地方の向こう1か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は多く、日照時間は平年並か少ない見込み。（気象庁高松地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁高松地方気象台）</p>	<p>「ヒノヒカリ」「コシヒカリ」「あきたこまち」「にこまる」を中心とする品種構成に大きな変化はない。</p>
高知	<p>【早期稲 7月3日時点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 出穂期は、4月6日植えの「南国そだち」と「コシヒカリ」では平年並みで、4月14日植え「コシヒカリ」は平年よりやや早くなっていた。 <p>【普通期稲 7月3日時点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 草丈は平年より低く、莖数が多く、葉齢は平年並みで生育している。 <p>（高知県農業技術センター 7月8日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月25日～8月24日】</p> <p>四国地方の向こう1か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は多く、日照時間は平年並か少ない見込み。（気象庁高松地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁高松地方気象台）</p>	<p>・早期栽培では「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成であるが、近年、高温多湿性に優れた「よき恋実入」が増加傾向にある。「南国そだち」は減少傾向。</p> <p>・普通栽培では「にこまる」が増加傾向にある。</p>
福岡	<p>【7月15日現在】</p> <p>（1）早生水稲（夢つくし、かじり）</p> <p>4月中下旬植えの出穂期は7月9～15日程度で平年並み。稈長は平年よりやや長く、穂数はやや少ない。</p> <p>（2）普通期水稲（夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど）</p> <p>6月下旬植え「夢つくし」は莖数が確保され、中干し時期を迎えている。7月上旬からの多雨、日照不足の影響で、軟弱徒長の生育となっている。また、7月5日からの大雨により、冠水が発生した地域もある。スクミリンゴガイの発生量が平年に比べて多く、ワンガ類の飛来は、平年より3週間程度早い5月上旬から始まり、飛来量も多い。現時点では、いもち病の発生は少ない。</p> <p>（福岡県農業総合試験場 7月15日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月25日～8月24日】</p> <p>九州北部地方の向こう1か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。（気象庁福岡管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>九州北部地方の3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁福岡管区気象台）</p> <p>【病害虫注意報】</p> <p>トビロウカ（7月14日発表）（農林水産省 7月15日付）</p>	<p>「ヒノヒカリ」「夢つくし」「元気つくし」を中心とする品種構成であるが、「ヒノヒカリ」が減少傾向。「夢つくし」「元気つくし」が増加傾向となっている。なお、県では今後、新品種「実りつくし」の拡大を推奨している。</p>
熊本		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月25日～8月24日】</p> <p>九州北部地方の向こう1か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。（気象庁福岡管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>九州北部地方の3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁福岡管区気象台）</p> <p>【病害虫注意報】</p> <p>トビロウカ・コブノメイガ（7月10日発表）（農林水産省 7月15日付）</p>	<p>「ヒノヒカリ」「森のくまさん」「コシヒカリ」を中心とする品種構成に、大きな変化はない。</p>
宮崎	<p>（生育・作柄）</p> <ul style="list-style-type: none"> 全穂数は平年並、登熟はやや不良、作柄はやや不良の見込み。（農林水産省 7月28日付） （7月中旬）普通期水稲は分け時期。（宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 7月22日付） 	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月25日～8月24日】</p> <p>九州南部地方の向こう1か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は多く、日照時間は平年並か少ない見込み。（気象庁鹿児島地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁鹿児島地方気象台）</p>	<p>「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「み系368」への作付誘導が進められている。</p>
鹿児島	<p>（生育・作柄）</p> <ul style="list-style-type: none"> 全穂数はやや少ない、登熟は平年並、作柄はやや不良の見込み。（農林水産省 7月28日付） 	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月25日～8月24日】</p> <p>九州南部地方の向こう1か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は多く、日照時間は平年並か少ない見込み。（気象庁鹿児島地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁鹿児島地方気象台）</p>	<p>「なつほのか」及び「あきほなみ」が増加傾向にある。</p>

注1：国及び地方自治体、地方自治体の出先機関等がホームページで公表している資料を米穀機構情報部で取り纏め。
注2：令和2年7月29日 14時時点での取り纏め。
注3：更新箇所は赤字で示した。

引用資料:

農作物の生育状況 7月15日現在(北海道 7月20日)、
農作物生育状況 7月15日現在(北海道空知総合振興局 7月20日)、
農作物生育状況 7月15日現在(北海道石狩振興局 7月20日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道後志総合振興局 7月20日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道胆振総合振興局 7月20日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道日高振興局 7月20日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道渡島総合振興局 7月20日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道檜山振興局 7月20日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道上川総合振興局 7月20日)、
農作物生育状況調査の概要 7月15日現在(北海道留萌振興局 7月20日)、
農作物の生育と農作業の進捗状況 7月15日現在(北海道オホーツク総合振興局 7月20日)、
作況調査報告(7月20日現在の生育状況)(青森県産業技術センター農林総合研究所 7月20日)、
令和2年度水稲生育定期調査結果No.5(7月15日現在)(岩手県農業研究センター 7月17日)、
令和2年度水稲の生育状況について(7月20日現在)(宮城県農政部みやぎ米推進課 7月21日)、
令和2年度産南稲作情報(第6号)(大原農業改良普及センター 7月21日)、
仙台稲作情報2020(第7号)(宮城県仙台農業改良普及センター 7月21日)、
令和2年度美里地区の稲作情報第7号(宮城県美里農業改良普及センター 7月21日)、
令和2年度大崎稲作情報第4-2号(宮城県大崎農業改良普及センター 7月21日)、
栗原の稲作通信令和2年6号(宮城県栗原農業改良普及センター 7月22日)、
稲作情報(vol.6)(宮城県石巻農業改良普及センター 7月22日付)、
令和2年度気仙沼・南三陸稲作情報第8号(宮城県気仙沼農業改良普及センターほか 7月22日)、
生育状況報告(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」<http://www.e-komachi.jp/> 7月22日)、
米づくり技術情報第10号(山形おいしき際立つ!米づくりプロジェクト本部 7月20日)、
雪若丸技術情報No.8(山形おいしき際立つ!米づくりプロジェクト本部ほか 7月20日)、
北村山のおいしい米づくり情報稲作だより第9号(北村山農業技術普及課 7月22日)、
「こおりやまの米」通信 生育状況速報(7月14日現在)(郡山市農作物生産対策協議会 7月20日)、
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 7月22日)、
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 7月20日)、
令和2(2020)年度水稲生育診断予測事業速報No.5(栃木県 7月27日)、
水稲の生育と当面の対策第6報(千葉県 7月28日)、
水稲の生育と今後の管理対策(第7号)(新潟県 7月28日)、
長雨と日照不足に伴う農作物の管理対策(新潟県 7月22日)、
新発田地域水稲生育速報No.7(新発田農業普及指導センター 7月27日)、
水稲生育速報No.5(巻農業普及指導センター 7月8日)、
FAX稲作情報No.10(三条農業普及指導センター 7月27日)、
水稲生育速報(長岡農業普及指導センター 7月27日)、
南魚沼産コシヒカリ生育速報 No.6(7/27 調査)(南魚沼農業普及指導センター 7月27日)、
コシヒカリ生育情報(魚沼農業改良指導センター 7月20日)、
コシヒカリ・こしいぶき生育速報(7月8日)(上越農業普及指導センター)、
稲作管理情報第10号(柏崎農業普及指導センター 7月27日)、
令和2年度糸魚川売れる米づくりコシヒカリ生育情報No.6(糸魚川地域振興局 7月20日)、
令和2年度稲作生育速報No.6(佐渡農業普及指導センター 7月20日)、
十日町地域稲作生育速報(十日町農業普及指導センターほか 7月20日)、
R2岩船米生育速報(村上農業普及指導センター 7月27日)、
TACS情報第9号(富山県 7月20日)、
令和2年度水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-8号)(石川県農林総合研究センター 7月17日調査)、
稲作情報No.11(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月10日)、
令和2年作物技術普及情報第9号(松本農業農村支援センター 7月22日)、
農業試験場水稲試験圃の生育状況(令和2年)(長野県農業試験場 7月20日)、
令和2年度水稲生育診断情報No.4(滋賀県農業技術振興センター 7月22日)、
令和2年度兵庫県農業気象技術情報No.3(7月情報)(兵庫県 7月3日)、
令和2年度病害虫発生予報第4号(岡山県病害虫防除所 7月2日)、
令和2年度における早期水稲の生育状況(7月3日時点)(高知県農業技術センター 7月8日)、
福岡県の主な農産物の生産情報(福岡県 7月15日現在)、
令和2年度病害虫発生予報第3号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター 7月22日)、

令和2年度農作物有害動物発生予察情報注意報第4号(山形県病害虫防除所 7月22日)、
病害虫速報No.4(茨城県病害虫防除所 7月17日)
農作物病害虫発生予察注意報第2号(福井県農業試験場 7月27日)、

北海道地方こう1か月の天候の見通し(7月23日札幌管区気象台)、東北地方こう1か月の天候の見通し(7月23日仙台管区気象台)、関東甲信地方こう1か月の天候の見通し(7月23日気象庁)
北陸地方こう1か月の天候の見通し(7月23日新潟地方気象台)、近畿地方こう1か月の天候の見通し(7月23日大阪管区気象台)、中国地方こう1か月の天候の見通し(7月23日広島地方気象台)
四国地方こう1か月の天候の見通し(7月23日高松地方気象台)、九州北部地方こう1か月の天候の見通し(7月23日福岡管区気象台)、
九州南部・奄美地方こう1か月の天候の見通し(7月23日鹿児島地方気象台)、

北海道地方こう3か月の天候の見通し(7月22日札幌管区気象台)、東北地方こう3か月の天候の見通し(7月22日仙台管区気象台)、関東甲信地方こう3か月の天候の見通し(7月22日気象庁)
北陸地方こう3か月の天候の見通し(7月22日新潟地方気象台)、近畿地方こう3か月の天候の見通し(7月22日大阪管区気象台)、中国地方こう3か月の天候の見通し(7月22日広島地方気象台)
四国地方こう3か月の天候の見通し(7月22日高松地方気象台)、九州北部地方こう3か月の天候の見通し(7月22日福岡管区気象台)、
九州南部・奄美地方こう3か月の天候の見通し(7月22日鹿児島地方気象台)、

令和2年度水稲の西南暖地における早期栽培等の作柄概況(7月15日現在)(農林水産省 7月28日)
「令和2年度病害虫発生予報第5号(水稲特集)」の発表について(農林水産省 7月15日)
令和2年度水稲の10a当たり平年収量に係る生産事情(都道府県別)(農林水産省 3月17日)